

2 文化づくり

1学期は、5月21日に小中合同体育祭を行いました。この体育祭は河合小中の9学年が揃う唯一の機会です。9学年の全クラスが協力して一文字ずつ作成したスローガン「つなぐ～全力で挑む体育祭～」を胸に、児童生徒がかかわり合いの中で、試行錯誤しながら自分たちの手で演技を創り上げ、共に成長していく姿を目指しました。その中で、今年はプログラムを大きく2つに整理し直しました。「魅せる」をテーマとし、体育的な演技発表を主とする第1部と、「一体感」をテーマとし、小中のつながりを求める第2部とすることで、ねらいを明確にして取り組めるようにしました。第2部のメイン「綱引き」では、練習の段階から小中のかかわりを深めようと、小中学生のペアをつくり、活動を共にしました。ペア活動のよさは、個々の小さなかかわりが多く生まれることにあります。リーダーが力強く全員を引っ張っていく姿とは異なる、温かで柔らかな表情や様子が見られました。本番では、互いに助け合い、応援し合っている姿が印象的でした。その他、児童生徒会が中心となり、9学年の「一体感」を高めるために、オリエンテーションでのアイスブレイクやエール交換の練習、体育祭後の振り返りの時間など、子どもたちが主体的に進めていく場面を多く設定しました。多くの児童生徒が、自分たちの手で体育祭を創り上げた達成感や充実感を抱くことができたと思います。この合同体育祭での学びを継続し、次の行事へ、また普段の学校生活へ、学級づくりへとつなげていきたいと考えています。

2学期は、10月3日に「小中特交流の日」として、1～3年生は特別支援学校との交流を、4～9年生は「たて割りふれあい講座」を実施しました。1～3年生の交流では、紙飛行機遊び（1年生）やおもちゃランド（2年生）、自己紹介ゲーム（3年生）などを行いました。特別支援学校の児童とは普段も生活交流を行っていますが、今回は十分に時間をとり、充実したふれあいができました。4～9年生の「たて割りふれあい講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響で、計画しながらも2年間実施を見合わせていた取り組みで（令和3年度は河合中のみで実施）、ようやく開催することができました。この取り組みは、19の講座から自分の希望する講座に分かれて活動することで、普段の授業や行事では得られない学びや縦のつながりをねらいとしています。自分の興味に沿った内容であり、また少人数での講座となるため、一人ひとりに活躍の場があり、児童生徒は意欲をもって活動することができました。19講座のうち4講座では、地域の方を講師としてお招きし、子どもたちに直接教えていただきました。会場は河合小学校、中学校、特別支援学校のほか、河合地区の施設（掘井城跡ふれあい公園、粟生陶遊館アルテ、河合歴史散歩で訪れる史跡など）を利用し、改めて地域を知るきっかけになりました。子どもたちにとって、河合地区のよさを肌で感じ、学年や学校の枠を超えた出会いやかかわり、豊かな学びが得られる機会になったと思います。



3 ふれあいの日

来年度からの中学校舎での生活に向けて、今年度も河合小学校の5年生が1～3学期に、各1日ずつ中学校舎に通う「ふれあいの日」を実施しました。

1学期は、中学校教員による算数と理科の授業を行いました。算数では、連続する数を10個足した答えを簡単に求める方法について考えました。理科では、プレパラートの作り方や顕微鏡の使い方を練習しました。また、上級生と一緒に中学校舎の清掃に取り組みました。2学期は、6～9年生の上級生とそれぞれ合同で授業を行いました。6年生からは「発見旅行」についての発表を聞きました。7年生との学活ではレクリエーションをしました。8年生との英語では決まった構文を使って英語で会話をしました。9年生との体育ではコーディネーショントレーニングに取り組みました。

3学期は、中学校教員による算数と音楽の授業を行いました。算数では速算をしました。音楽ではさまざまなリズムを使ってアンサンブルをしました。

「ふれあいの日」を通して中学校舎での生活について慣れるとともに、異学年間の交流ではお互いに尊重し合う温かい雰囲気を感じられました。4月から5年生の児童が河合中学校舎でさらに成長することを楽しみにしています。

